

平成二十四年度 卒業式 式辞

立田南部小学校のシンボルであるメタセコイアの木が、春の訪れを知らせようとしています。この佳き日に、愛西市長様、愛西市議会議員様始め、多数のご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、第六十六回卒業式をこのように盛大に挙行できますことを、心からお礼申し上げます。

「ありがとうございます」

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今、お子様から卒業証書を受け取られ、これまでの子育ての様々な思い出が、わき上がっていることと思います。また、これまで本校の教育活動に対して、ご理解ご協力をいただき、お子様の成長にため、共に力を合わせて進むことができましたこと、厚くお礼申し上げます。

さて、四十四名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの心の中には、小学校六年間のいろいろな思い出がよみがえ

っているのではないでしょうか。特にこの一年間は、最上級生として、自覚と責任をもつてすばらしい活動をしました。青空タイムでは、グループごとの活動計画から運営まで、リーダーとして活躍しました。運動会では、5年生といっしょに取り組んだ組体操はもちろん、運動会全体にかかわる役割を責任をもって果たしました。学習発表会では、「ブルーバード」の「平和を求めて」を演じ、さすが6年生と言われる発表ができました。

こうした学校行事などの活躍はもちろんですが、私が、さらに素晴らしきと感じたことがあります。それは、児童会・委員会が中心になって行った、「スマイルキャンペーン」「ちよこつとボランティア」「名札・ハンカチ・ティッシュ調べ」などの取り組みです。

「スマイルキャンペーン」のおかげで、立田南部小学校はふわふわ言葉でいっぱいになりました。「ちよこつとボランティア」の活動で、自ら進んでゴミを拾ったり、トイレのスリッパをそろえたりする人が増えました。「名

札・ハンカチ・ティッシュ調べ」は二年越しの取り組みで、全校で「忘れゼロ」を目指しました。あとほんの少しのところで「忘れゼロ」にはなりませんでしたが、とても大きな成果があったと思います。こうした地道な取り組みの積み重ねが、立田南部小学校をより良くしていくのです。

これらの活動は、私が朝礼などで話してきた「基本のABC」の実践そのものです。

A：当たり前前のことを

B：バカにしないで

C：ちゃんとやる

では、学校生活の中で、当たり前前のことは何でしょうか。多くのことが頭に浮かぶと思います。私は、「毎日、休まず学校に来ること」が、一番に思い浮かびました。立田南部小学校は、児童の欠席が本当に少ない学校です。卒業生で、今年度欠席のない子は6人います。学校全体では、全員出席の日が十五日ありました。今年はインフルエンザが流行したため、例年より少ない数です。昨年度は、全員出席

の日は二十一日ありました。これは、立田南部小学校の素晴らしい伝統だと思っています。5年生を始め在校生の皆さんは、こうした良き伝統を守るとともに、立田南部小学校をさらに発展させてください。

また、この「基本のABC」は、皆さんの夢を叶えるための基本でもあります。当たり前前のことを積み重ねると特別なものになります。夢を叶える方法は、これしかないと思います。小さなことを積み上げていけば、必ず夢は叶います。夢を叶えることは、自分の幸せだけでなく、多くの人を幸せにします。できるだけたくさんの人を幸せにできる人になってください。

そして、卒業生の皆さんは、いよいよ中学校に進みます。それぞれが、大きな夢をもって活躍してほしいと願っています。そこで、このような中学生がいることを紹介したいと思います。

「夢だけは 壊せなかった 大震災」

この句は、宮城県の中学生在が詠んだもので

す。この中学生の仲間たちは、大震災後、社会科の授業をきっかけに、津波対策を考え、それを実現しようとする夢をもちました。ふるさとの地理的な特徴を調べ、津波の被害を最小限にする方法をみんなで考えました。再びやってくるといわれる千年後の命を守るために、一生懸命努力している中学生がいることを、是非、覚えていてください。

いよいよお別れの時が近づいてきました。卒業生の皆さん、無限の可能性を秘めた未来に向かって、明るくたくましく育ってください。巣立ちゆく卒業生の皆さんの前途に、幸多かれとお祈りし、式辞といたします。

平成二十五年三月十九日

愛西市立立田南部小学校長

小島基生